

(様式1)

校種	小・中 どちらかに○	学校番号	2	学校名	宇都宮市立東小学校
----	---------------	------	---	-----	-----------

平成31(2019)年度 学校経営計画

1 教育目標

(1) 基本目標

「心身ともに健康で、創造力、実践力に富み、自主的精神に満ち、国際社会に貢献できる個性豊かな日本人を育成する。」

(2) 具体目標

① めざす児童像(合言葉)

- ・ 豊かな心を持ち、思いやりのある子(豊かな心情)…なかよく
- ・ 自ら考え、進んで学ぶ子(自主・創造)…かしこく
- ・ 素直で明るく、健康な子(心身の健康)…たくましく
- ・ 気力をひめ、精一杯がんばる子(気力・体力・実践力)…がんばる

② めざす学校像

- ・ きまりを守り、活気にあふれ笑顔が輝く学校
- ・ 学ぶことを大切にし、子どもと教師が共に育つ学校
- ・ 地域と共に歩み、笑顔がつながる学校

③ めざす教師像

- ・ 使命感と教育愛にあふれた指導力のある教師
- ・ 子どもに寄り添い、共に学び共に伸びる教師
- ・ 子ども・保護者・地域から信頼される教師

2 学校経営の理念

「一人を大切にする」及び「多様性と人権を尊重する」を学校経営の基盤に据え、
学校・家庭・地域が一体となって、「共に学ぶ楽しさ、共に伸びる喜びを味わえる学校」を目指す。
スローガンを「笑顔が輝き、笑顔がつながる東小」とする。

「一人を大切にする」及び「多様性と人権を尊重する」を学校経営の基盤とし、学校が主体となり、家庭や地域社会の教育力を活用して、子どもたちが、互いを尊重し合い、共に学ぶ楽しさや共に伸びる喜びを実感できる、活気にあふれ、創意工夫のある、地域とともにある魅力ある学校づくりを推進する。

また、新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築を推進するとともに、学校は保護者や地域から信頼され、教職員は頼られ、子どもたちは夢や希望をもって共に意欲的に学び合い、誰もがやりがいを感じながら明るい笑顔で共に伸び伸びと生活できる楽しい学校づくりを通して、学校・家庭・地域に笑顔の輪がつながることを目指す。

3 学校経営の方針

(1) 持続可能な学校指導・運営体制の構築…「働き方改革の推進」

- ① 勤務時間を意識した働き方の推進
- ② 校内業務の適正化・効率化
- ③ 保護者や地域の教育資源の有効活用

(2) 「豊かな心」の育成…学校づくりの視点①「よさを認め、励まし伸ばす指導の充実」

- ① 互いのよさを認め合い、共に伸びる喜びを味わえる学校づくり
- ② 基本的な生活習慣の育成
- ③ 規範意識の醸成
- ④ 人間関係力・社会性の育成
- ⑤ 児童指導・教育相談・特別支援教育・いじめ対策の充実

(3) 「確かな学力」の育成…学校づくりの視点②「共に学び、楽しく分かる授業の推進」

- ① 主体的に取り組み、共に学び、楽しく分かる授業づくり
- ② 思考力・表現力を伸ばし、高める指導の工夫
- ③ 基本的学習態度と基礎・基本の確実な定着
- ④ 読書活動の充実
- ⑤ 家庭学習の定着・充実

(4) 「健やかな体」の育成…学校づくりの視点③「たくましく生きる力を育む指導の充実」

- ① 自ら健康や体力づくりに励み、たくましく生きる人づくり(体力の向上と健康教育の推進)
- ② 安全指導の強化・徹底
- ③ 望ましい食習慣の向上

(5) 「強い意志力と実践力」の育成…学校づくりの視点④「達成感を実感させる指導の工夫」

- ① 愛情や誇りを感じ、夢や希望のもてる学校づくりの推進
- ② 特色ある学校づくりの推進

(6) 「家庭との連携」の推進…学校づくりの視点⑤「家庭とつながる学校づくりの推進」

- ① 家庭と協働して子どもを育む教育活動の推進
- ② 開かれた学校づくりの推進

(7) 「地域との連携」の推進…学校づくりの視点⑥「地域とつながる学校づくりの推進」

- ① 地域と協働して子どもを育む活動の推進
- ② 陽北地域学校園における小中一貫教育の充実

【陽北地域学校園教育ビジョン】

学びあい 認めあい 高めあう 陽北地域学校園

4 教育課程編成の方針

(1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法、小学校学習指導要領等の教育関係諸法令、並びに栃木県及び宇都宮市の教育委員会の学校教育推進の方針及び指導の重点、第2次宇都宮市学校教育推進計画、第2次宇都宮市学校教育スタンダード等の示すところに従い、本校の教育目標の達成を期するように編成する。

(2) 児童の発達段階や各教科等の特性、学習指導要領の趣旨を生かして、知・徳・体の調和のとれた、人間性豊かで自ら学び考えるなどの「生きる力」を身に付けた児童の育成を目指した教育課程の編成に努める。

(3) 本年度の学校教育目標、学校経営の方針、努力点や具体策、学校課題の具現化を図るとともに、家庭・地域との連携を深め、地域の教育力を生かした教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標(「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○)

(1) 学校運営

合い言葉を「笑顔が輝き、笑顔がつながる東小」として、全教職員が一丸となって活力ある学校づくりに努めるとともに、地域の教育力をこれまで以上に有効に活用し、特色ある教育活動と地域とともにある学校づくりを推進する。

また、新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築を目指し、勤務時間を意識した働き方改革を積極的に推進する。

(2) 学習指導

「共に生きる力を育む～共に学ぶ楽しさ、共に伸びる喜びを味わう学級集団づくり～」

(3) 児童生徒指導

○「ルールやマナーを守る態度の育成」

(4) 健康(体力・保健・食・安全)

○「自ら進んで心と体の健康づくりに取り組む児童の育成」

6 学習指導, 児童生徒指導, 健康(体力・保健・食・安全)に関する取組

※ 様式2～4参照

7 特色ある学校づくり等に関する取組

(1) 育てたい資質・能力

- ① 「確かな学力」の育成では、読書活動や個に応じた指導法の工夫等を通して基礎・基本を確実に身に付けさせるとともに、体験的学習・協働的な問題解決的な学習の中で基礎・基本を支える主体的に学ぶ意欲や思考力・問題解決力・表現力を育成する。
- ② 体験活動やふれあい活動を通し、周りの様々な人やもの・自然とかかわって成長していくことを実感する中で、自分の個性に気付き、他者への関心、寛容性、思いやりの心、奉仕の精神などの豊かな心を育て、他者を尊重しながら積極的に関わろうとする態度を養う。
- ③ 道徳教育の充実や縦割り班活動、あいさつ等の日常の実践を通して、基本的習慣を身に付けさせるとともに、集団の一員としての自覚や社会性、規範意識を高め、協力して生活をしようとする態度を育てる。

(2) 具体的取組(提案型予算「頑張る学校プロジェクト」に関する取組には文頭に◇)

① 「確かな学力」の育成

- ア 学習内容定着度調査・学力テストの結果を踏まえた授業改善
- ◇イ 教師の授業力向上…一人1授業の推進、習熟度別学習やT・T授業の充実、同僚性の充実・強化、主体的・協働的な学びを通じた思考力・表現力を育てる授業づくり、子どもの発言をつなげ広げるコーディネータ力の向上
- ウ 受容的・共感的に相手の話を聞くことができる児童の育成と共に学ぶ学級づくり
- エ 学習習慣の定着化…「ひがしの子のやくそく学習編」の徹底、学習の足跡が残るノート作りの指導、「家庭学習の手引き」や自学ノートの有効活用
- オ 朝の学習や繰り返し指導、漢字・計算力などの基礎力の強化
- カ 読書活動の充実(朝の読書・読み聞かせ・学習情報センターとしての学校図書館の活用)
- ◇キ 体験的な学習や主体的・協働的な問題解決学習の充実
- ◇ク コンピュータや視聴覚機器などのICTの積極的な活用

② 「豊かな心」の育成

- ア 協働的に学び合う学級集団づくり
- イ 判断力、心情、実践意欲と態度を育てる道徳授業の充実(授業公開)
- ウ 「ひがしの子のやくそく生活編(10の約束)」の徹底(廊下の正しい歩行)
- エ 異学年交流やPTA(保護者)や地域の方たちとの交流
- ◇オ 学校環境の美化(東小クリーン活動、朝の奉仕活動、学校環境の整備)
- カ あいさつ運動の推進「あいさつ・言葉づかいプロジェクト」
- キ いじめ対策の充実(いじめゼロ強調月間・児童会による「いじめゼロ集会」)
- ク 地域の特色を生かした教育活動の推進
- ケ 教材園等を活用した栽培活動の推進

③ 「健やかな体」の育成

- ◇ア 体力づくり(体力テストの結果を生かした教科体育時の計画的な体力増強)、「東校サーキット」、マット運動の推進(地域学校園で設定)
- イ 安全意識(「自分の命は自分で守る」)を高める実践的な避難訓練
- ウ 各種検定(水泳・縄跳び等)を活用した体力の向上
- エ うつのみや元気っ子チャレンジの実施
- ◇オ 正しい姿勢の定着
- ◇カ 正しい箸の持ち方等、望ましい食習慣の指導

④ 「強い意志力」と「実践力」の育成

- ア 一人一人が活躍できる学年・学級経営
- イ 成就感・達成感を味わえる児童会活動・学校行事の工夫
- ウ 業間休みや昼休みを活用した児童主体の活動の充実
- エ 自分の立てた「めあて」の実践、がんばりカードの活用
- ◇オ 全校体制による百人一首の推進

⑤ 「家庭とつながる学校づくり」の推進

- ア 基本的な生活習慣の定着
- イ 食育・偏食指導の充実
- ウ 学校だより・学校ホームページの充実
- エ 土曜授業(年2回)、学校公開の工夫・充実

8 本市の重点施策・事業との関連

(1) 地域とともにある学校づくり(「魅力ある学校づくり地域協議会」との連携・協働を含む)

① 基本的考え

従来から「開かれた学校づくり」として推進してきた取組・考え方をさらに発展させ、学校が地域の人々と教育目標やビジョンを共有して、それぞれの役割を分担・協働して子どもたちの教育を担うとともに、学校を核として、地域の大人と子どもたちが学び合い、地域コミュニティの活性化を図る。

② 主な取組

- ア 地域の教育ボランティアの積極的活用…読み聞かせボランティア、書道ボランティア、家庭科ボランティア、児童引率ボランティア、学習見守りボランティア、夏休み作品整理ボランティア等
- イ 地域の各種団体との連携・協働…高齢者・民生委員による昔遊び(2年生)、幼稚園との交流(1年生)、東地区体育協会や育成会・子供会等との連携協働(地区ふれあいまつり、地区体育祭、たこあげ大会、地区防災訓練、学校に泊まろう等)

- ウ 魅力ある学校づくり協議会との連携・協働…学校内外の環境整備, 教育的人材の発掘・協力, 登下校時の安全確保の協力, 地域ぐるみのあいさつ運動, ふれあい給食, 親子クリーン作戦, 親学出前講座, 学校評価等
- エ PTA や子ども会・放課後子ども教室, 留守家庭児童会との連携・協働
- オ 地域ボランティアや地域企業等との連携・協働…八幡山公園, 田川, 地域の商店や施設, 寺社等の活用
- カ 地域とともにある学校づくりの推進…学校概要・学校(学年)だより, 地域協議会だより, 土曜授業(オープンスクール), ホームページ等の充実

(2)小中一貫教育・地域学校園

① 基本的考え

「学びあい, 認めあい, 高めあう 陽北地域学校園」をビジョンとして陽北地域学校園の小中の教職員が連携・協働して, 義務教育9年間を通じた系統的な指導と地域の教育資源を活用した特色ある教育活動などによる全ての子どもたちの学力保障と学校生活適応を目指し, 学校教育の充実を図る。

② 主な取組

- ア 交流活動…小中あいさつ運動, 6年生による中学校訪問の充実
- イ 学力向上…授業の約束(準備・着席・良い返事)の徹底, 家庭学習の定着, 自学ノートの充実, 授業における話し合い活動の充実(国語), 思考力・表現力の育成(算数・数学), 英語による校内環境整備とアクティビティの工夫(英語・外国語活動)
- ウ 心の教育…道徳科における全学年の指導案・展開例の整備と評価の工夫
- エ 食育…箸の正しい持ち方の指導, 学校園の共通テーマ「豆類を使った料理」によるお弁当の日
- オ 健康・体力…サーキットトレーニングの自校化・定着化, 基本的な動きの定着(前転・後転, 倒立, 25m泳ぐ)

(3)不登校対策

① 基本的考え

教職員一人一人が児童の学校生活不適應・不登校に危機感をもち, 校長のリーダーシップのもと, 組織的な対応を行う。特に, 不登校の未然防止に努め, 新たな不登校を生まないための早期発見・早期対応の取組を行う。

② 主な取組

- ア 欠席状況共有シートの作成による, 不登校児童・不登校傾向の児童の共有
- イ 不登校に係る校内体制の強化…ケース会議・校内教育支援員会・いじめ等対策委員会などの効果的な活用
- ウ Q-U を生かした学級経営
- エ 定期教育相談(6・1月), 子どもを語る会の実施(5・10月)
- オ 日々の様子の活用, 職員会議後の児童指導情報交換

(様式2)

校種	小・中	学校番号	2	学校名	宇都宮市立東小学校
----	-----	------	---	-----	-----------

平成31年度 学習指導に関する取組

1 学習指導上の主な実態

(1) 国・県・市の学力調査などから

【国語】

とちぎっ子学習状況調査において、4年生は、「話す・聞く」「書く」「言語」の領域で正答率が市の平均より高い。5年生は「書く」「読む」「言語」の領域で正答率が市の平均より高い。また、全国学力・学習状況調査において、6年生は、「書く」「読む」の領域で正答率が市の平均より高い結果となっている。どの学年も、「書くこと」において正答率が市の平均より高い傾向にあり、自信をもって自分の考えを書ける児童が増えてきたことが分かる。

【算数】

とちぎっ子学習状況調査において、4年生は、「図形」の領域で正答率が市の平均を上回ったが、「量と測定」「数量関係」の領域で市の平均を下回った。5年生の正答率は、全ての領域で市の平均を上回り、特に「量と測定」「図形」の領域での正答率は市の平均よりも10ポイント以上高かった。また、全国学力・学習状況調査において、6年生はA問題(基本)ではどの領域も市の平均を上回ったが、B問題(活用)では、どの領域でも市の平均を下回っている。特に、解答を導き出した理由について説明する問題での正答率については、どの学年も正答率が低い傾向が見られた。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

「勉強が好き」についての肯定的割合は、3, 4年生が市の平均を下回り、1, 2, 5, 6年生は市の平均を上回った。また、「授業の理解度」の肯定的割合は、4年生が市の平均を下回ったものの、3, 5, 6年生では市の平均を上回った。特に「学習して、いろいろなことが分かったり、できるようになったりすることがうれしい」の肯定的割合が高く、知的好奇心が旺盛なことが分かる。さらに、「話し合いに自分から進んで参加している」の肯定的割合も高い学年が多く、自分の意見を積極的に話そうとする児童の多いことが分かる。しかし、授業開始時に着席することは市の平均を下回っている学年があり、基本的な学習態度に課題があることがうかがえる。家庭学習については、「目標時間取り組んでいる」に対する保護者の肯定的回答の割合が69%と低く、児童の回答では、平日の家庭学習の時間は確保できているものの、休日の家庭学習の時間が短いなどの課題がある。自主学習の仕方や内容について指導を充実させるとともに、家庭にも協力を仰ぎ、家庭学習の啓発を図っていく必要がある。

(3) 授業等への取組状況から

体験的・問題解決的な学習活動について、児童が興味をもって意欲的に取り組む姿勢が定着している。また、学習面で分からないことは、教師に聞く態度が定着している。教師が示した学習課題を真剣に受け止め、その問題解決に向けてこつこつと努力し、家庭学習などを通して復習する習慣が身に付いてきている。また、校内研究の推進により、自分の思いや考えを言葉などで伝えることの楽しさを感じ、積極的に友達と関わりながら学ぼうとする姿勢が育ってきている。しかし、次のような問題点がある。

- ・ 学習課題を主体的に捉え、見通しを立てて自分の課題を追究し粘り強く解決しようとする力において、個人差が大きく、教師に依存している児童もいる。
- ・ 自分の考えを話や文章で分かりやすく伝えたりする力については個人差があり、個々の学び

を生かして学級全体の学びへと広げるための協働的な学びについてはまだ十分とは言えない。

2 今年度の重点目標

「共に生きる力を育む～共に学ぶ楽しさ、共に伸びる喜びを味わう学級集団づくり～」

3 今年度の取組（「学校教育スタンダードに関する取組は文頭に★、「平成31年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、授業における取組のうち重点は文頭に○）

(1)主体的に取り組み、共に学び、楽しく分かる授業づくり

- ★□○教師の指導力の向上(一人1授業の推進, 同僚性・OJTの充実強化, 通年)
- ★□○受容的・共感的に相手の話を聞くことができる児童の育成と共に学ぶ学級づくり
- ★□○協働的に学び合う態度の指導の充実
 - ★○習熟度別学習やT・T授業を活かした個に応じた指導の工夫(5年生以上 通年)
 - ・発達段階に応じた単元展開計画の工夫
 - ・子どもの実態や思いに合わせた授業デザインの工夫
 - ★コンピュータや視聴覚機器(ICT)を効果的に活用した資料提示や表現方法の指導(通年)

(2)協働的な学びを通して、思考力・表現力を伸ばし、高める指導の工夫

- 言語活動の充実を図る授業づくり
- 子どもの発言を広げたりつなげたりするコーディネート力の向上
- ねらいの明確な提示や理由を問う発問の工夫(通年)

(3)基本的学習態度と基礎・基本の確実な定着

- ・朝の学習の実施(火・木曜日)
- ・漢字や計算の定着を図るテストの実施(通年)
- ★○「ひがしの子のやくそく・学習編」の徹底(通年)
- ★○基本的学習態度「授業の約束(準備・着席・良い返事)」の定着(通年)
- 学習の足跡が残るノート作りの指導の徹底(通年)
- ★○習熟度別学習やT・T授業を活かした個に応じた指導の工夫(5年生以上 通年)
- ★□○全国学力調査、とちぎっ子学習状況調査の結果を踏まえた授業の充実(通年)

(4)読書活動の充実

- ★□「朝の読書」の実施(月・水・金曜日8:15～8:25)
 - ★ファミリー読書の推進(年3回)
 - ・多読賞他の授与による読書意欲の向上(通年)
 - ★司書業務嘱託員との連携による学習・情報センターとしての学校図書館の機能の充実
 - ★「街の先生」などの学習支援ボランティアの協力を得た読み聞かせの実施(毎週1回)

(5)家庭学習の定着・充実

- ★□家庭学習の習慣化の徹底(自主学習の指導の充実 通年)
- ★□家庭学習強化月間における児童及び保護者による家庭学習の振り返りの実施(6月・11月)
- ★□保護者会における家庭学習の習慣化(10分×学年+10分)についての情報交換及び自学ノート掲示による紹介の場の設定(6月・2月)

(6)家庭・地域との連携・協力

- ★□学習内容定着度調査, 学習と生活のアンケートの結果の公表(3月)
- ★□保護者会における「学習内容定着度調査」「学習と生活のアンケート」に基づいた学習指導の説明(2月)
 - 保護者会における規則正しい家庭生活についての情報交換の場の設定(6月・2月)
 - ・学習支援ボランティアの協力を得た授業の推進(通年)

校種	④・中	学校番号	2	学校名	宇都宮市立東小学校
----	-----	------	---	-----	-----------

平成31年度 児童生徒指導に関する取組

1 児童生徒指導上の主な実態

(1) 問題行動等調査から

- ・学校生活や地域生活のきまりやマナーは、おおむね守られている。しかし、登下校時の歩き方についてはいくつかの問題が起き、その都度指導を重ねてきた。
- ・暴力2件、いじめは3件と報告件数が昨年度よりもそれぞれ増加した。暴力については、日々担任等が指導に当たっているが、その場は収まるものの、再発してしまっている。いじめについては再発を防止する観点から注意深く経過観察してきた。

(2) 国・県・市の児童生徒指導質問紙・学校質問紙などから

- ・「学校は活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」「児童は互いに認め合い、仲良く学校生活を送っている」の項目は、肯定的回答が児童・保護者ともに88%を上回っていて、児童が楽しく生き生きとした学校生活を送っていることがうかがえる。
- ・児童会や地域学校園でのあいさつ運動の継続や校内では必ず教職員と児童はあいさつするというあいさつの習慣化を目指している成果もあり、あいさつについての児童の肯定的回答は92.1%であった。地域の肯定的回答も86.7%と昨年度を10ポイントも上回ったものの、保護者の肯定的回答は73.8%と低く、あいさつが必ずしも習慣化されているとは言えない。正しい言葉づかいについても同様の傾向が見られ、昨年同様、保護者・地域と連携したあいさつ・正しい言葉づかいの指導が必要であると考えられる。
- ・「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」の項目については、児童の肯定的回答は95.1%と高いので、児童には十分意識づけられていると考える。保護者に対して学校だよりや学年だよりにいじめに関する取組や教育相談のお知らせなどを掲載し、いじめの早期発見及び解決に取り組んでいることを情報発信した結果、今年度の肯定的回答は100%と14.6ポイントも上昇した。これらのことから、これまで行ってきたきめ細やかな児童観察や教育相談によるいじめの早期発見などの取り組みを今後も保護者に向けて効果的に伝えていく必要があると考える。

(3) 学校生活の状況から

- ・明るく、素直で、勤労を嫌がらずに行う児童が多い。
- ・縦割り班活動などの異学年交流を通して、互いに協力し合って生活することができる。
- ・与えられたことには責任をもって取り組めるが、主体的に行動できる児童は少ない。

2 今年度の重点目標(「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○)

○ 「ルールやマナーを守る態度の育成」

- ・基本的な生活習慣を身に付け、互いに協力し合う、心豊かな児童の育成

3 今年度の取組(「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に★,平成31年指導の重点に関する取組は文頭に□,不登校対策における取組のうち重点は文頭に○)

(1)互いのよさを認め合い,共に伸びる喜びを味わえる学校づくり(自己肯定感を育む教育の推進)

- 帰りの会等で,善行児童を学級内で認め合う「ほめほめタイム」の実施
- 児童一人一人のよさを認め合い,高め合う学級環境の工夫
- 月1回の「さわやか東賞」の表彰

(2)基本的な生活習慣の育成

- ★児童会によるあいさつ運動や小中あいさつ運動(毎月第1木曜日)の実施
- ・合言葉「さわやかあいさつ いつでも・だれにも・自分から」による指導の徹底
- ・あいさつ・言葉づかいプロジェクトの推進
(PTA 生活指導部との連携,あいさつ・言葉づかいがんばりカードの活用)
- ☆生活当番を中心とした基本的な生活習慣の育成と定着

(3)規範意識の醸成

- ★□「ひがしの子のやくそく生活編(10の約束)」の徹底(廊下の正しい歩行 ストップ5)
- ★□○道徳や学級活動の時間でいじめやあいさつ,言葉づかい等を題材とした授業の実施
- ★□○人権意識の高揚を目指した人権強化旬間の実施(11月)
・薬物乱用防止教室の実施 喫煙防止についての授業の実践(高学年)
- ☆□児童指導主任を中心とした,組織的な規範意識の醸成と定着

(4)人間関係力・社会性の育成

- ★□キッズ班(縦割り班)による遊び,清掃活動,交流給食の実施(通年)
- ★□Q-Uを生かした学級経営(通年)

(5)児童指導・教育相談・特別支援教育・いじめ対策の充実

- ★□いじめゼロ強調月間(5月,9月)の充実(なかよしリボンの活用,いじめゼロ集会を実施)
- ★□○定期教育相談の実施(6・1月),Q-U事例研究会の実施(7月),子どもを語る会の実施(5・10月)
- ★□○校内支援委員会(年3回)・特別支援教育研修の実施
- ★□○いじめに関する調査(年2回),学校生活に関する調査の実施
- ★□○日々の様子の活用(通年),職員会議後の児童指導情報交換会

(6)家庭・地域・関係機関などとの連携

- ★本の読み聞かせ・書道・家庭科等のボランティアとの連携,街の先生や東地域防犯パトロール隊,地域関係団体と連携した教育・安全活動の推進
- ・放課後子ども教室との連携
- ・学校便り・学年だよりによる学校活動の情報公開・保護者への啓発

(様式4)

校種	小・中 どちらかに○	学校番号	2	学校名	宇都宮市立東小学校
----	---------------	------	---	-----	-----------

平成31年度 健康（体力・保健・食・安全）に関する取組

1 健康（体力・保健・食・安全）に関する主な実態

(1) 定期健康診断・元気っ子健康体力チェックから

- ・ 本校の児童の体型は、学年によってばらつきが見られるが、全国・県平均と比較し大差なく、肥満傾向の児童の割合は低い。進級するにつれて、視力が低下傾向にあるので注意を要する。
- ・ 体力については、本校の新体力テストの結果を市平均と比較すると、男子は、3・4・5年が市平均より低く、女子は、1年生～4年生が市平均より低い。6年生男女は、ほとんどの種目で市平均よりも優れている。

・ 種目別・男女別に見ていくと、男子は1・6年生が握力以外の種目で市平均を上回っている。上体おこしでは、1・3・4・6年生、反復横とびでは、1・2・3・4・6年生、50m走では、1・2・4・6年生、立ち幅跳びでは、1・2・4・5・6年生、ボール投げでは、1・2・3・4・6年生で市の平均を上回った。しかし、握力では、全ての学年で市の平均を下回り、長座体前屈では、3・4・5年生が、さらに20mシャトルランでは、2・5年生が市平均を下回っている。

女子は、全学年で長座体前屈が市平均を下回り、1・3・5・6年生が握力で市平均を下回り、さらに2・3・4年生が上体おこしで市平均を下回っている。また、反復横跳びでも、1・4年生が市平均を下回っている。20mシャトルランでは、2・3・4年生が市平均を下回っている。一方、1・4・5・6年生の50m走、4・5・6年生の立ち幅とび、ソフトボール投げは市平均を上回っている。握力・上体おこし・立ち幅跳び・ボール投げなどの筋力や跳力、長座体前屈の柔軟性を高めていく必要がある。

- ・ 小中学生のうちに身に付けさせたい各種運動の基礎となる体力や技能である「25m泳げる」、「逆上がりができる」、「壁倒立が10秒できる」、「2重跳びが10回できる」、「ドッジボールを10m投げられる」を計測するミニマム達成状況によると、どの項目も学年が上がるにつれて、できる割合が高くなっている。特に「逆上がりができる」は低学年のうちからできる児童も多い。

男女別にみると、男子は、「25m泳げる」と「ドッジボールを10m投げられる」の項目が高い。しかし、全体的に「2重跳びが10回できる」ができない児童が多く、全学年合わせても25.8%しかできる児童がおらず、かなり低い。また、「逆上がりができる」児童は、全体の50.5%、「壁倒立が10秒できる」児童は全体の37.6%である。休み時間にボールを使った遊びを好んで行う傾向があるため、短縄や鉄棒に触れる機会が少ないからだと考えられる。

女子は、「25m泳げる」「逆上がりができる」、「壁倒立が10秒できる」、の項目が比較的高い。しかし、「2重跳びができる」児童は全体の48.6%、「ドッジボールを10m投げられる」児童が全体の45.9%と半分を下回っている。遊びの様子を見ると、男子よりも鉄棒や短縄を使って遊んでいる児童が多く半面、ボールを使った遊びは少ない傾向にあるからだと考えられる。鉄棒で遊ぶことにより逆さ感覚が養われ、逆上がりだけでなく、壁倒立の割合も高くなっていることが推察される。

- ・ 5年間に渡る校舎の大規模工事等の影響で、本校の体力は確実に低下してしまった。授業や体育的行

事等による効果的な取り組みが急務である。

- (2) 元気っ子健康体力チェックのアンケート及び国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから
- ・ 運動することは大切であると回答している児童の割合は、1年生から順に 96.2%, 100%, 97%, 90.9%, 100%, 100%と全体的に高い。しかしその一方で、自分から進んで運動している児童は1年生から順に 80.8%, 45.7%, 81.8%, 72.7%, 89.2%, 77.5%と意識と実態とのずれが見られる。
 - ・ 早寝・早起きを心がけていると回答している児童は、1年生から順に 80.8%, 60%, 78.8%, 63.6%, 78.4%, 92.5%と2・4年生だけ極端に低い。他の学年はおおむね高い。また、朝食を食べる習慣は、1年生から順に 96.2%, 88.6%, 81.8%, 90.9%, 89.2%, 85%と大部分の家庭で習慣づけがなされていることが分かる。しかし、児童の中には、毎日朝食を食べていないと回答している児童もいる。給食では、好き嫌いなく食べることができるように、苦手なものでも一口は食べるように指導しており、嫌いなものも自分から努力して食べている姿が見られる。
 - ・ 交通事故にあわないように交通ルールを守ったり、不審者から自分の安全を守る行動を心がけたりしている児童の割合は、1年生から順に 100%, 94.3%, 93.9%, 97%, 97.3%, 97.5%と全ての学年で93%以上となっている。
- (3) 授業や健康安全・体育的行事等への取組状況から
- ・ 体育の好きな児童が多く、体育の授業や体育的行事に積極的に参加している。
 - ・ 陽北学校園(小中一貫)で行っている補強運動「東校サーキット」を体育授業時に実施することにより、運動量の確保ができた。児童の実態に応じて、苦手としている運動を重点的に実施できるようにしてきた。
 - ・ 運動委員による「朝の1分間運動」を行うことで運動意識を高め、児童が主体的に体力向上に取り組むことができた。
 - ・ 水泳検定表やなわとび検定表の活用やうつのみや元気っ子チャレンジによる、連続長縄跳び・ボール投げリレーの開催により、児童がめあてをもって意欲的に取り組み、進んで運動に取り組むことができた。
 - ・ 地震・火災・竜巻などの自然災害の発生を想定した避難訓練に、どの学年の児童も真剣に取り組む、スムーズに避難することができた。
 - ・ 給食時には、10分間のもぐもぐタイムの実施による食事のマナー習得とともに、嫌いなものでも一口は食べることができるよう、栄養士が各教室で指導にあたっているが、偏食がちだった児童も自分から進んで食べる努力をする様子が見られた。

2 今年度の重点目標

- 自ら進んで心と体の健康づくりに取り組む児童の育成

3 今年度の取組 (「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に★、「平成31年度指導の重点」に関する取組は文頭に□)

- (1) 自ら健康や体力づくりに励み、たくましく生きる人づくり(体力の向上と健康教育の推進)

★□新体力テストの結果の分析及び授業における補強運動の効果的な実践(通年)

- ・陽北地域学校園各校で取り組んだ効果的な体育的な取組の実践

□運動委員会による「朝の1分間運動」の実施(通年)

- ★□各種検定(水泳・なわ跳び等)を活用した体力の向上
- ★□うつつのみや元気っ子チャレンジ,「連続長縄跳び」「ボール投げリレー」の実施
 - ・正しい姿勢の定着を図る指導の推進

(2)安全指導の強化・徹底

- ★□「自分の命は自分で守る」意識を育む指導の充実
- ★□実践的な各種避難訓練の工夫(地震・火災・不審者・竜巻)
 - ・登下校指導の充実
 - ・危機管理体制の強化とメール配信の積極的な活用
 - ・安全点検による校内の環境整備,危険個所の把握。

(3)望ましい食習慣の向上

- 朝食をとっていない児童に対する個別指導の実施。(通年)
- ★□肥満傾向にある児童に対する栄養指導の実施。(通年)
- ★□給食指導を中心に正しい箸の持ち方に関する指導の充実(通年)
 - 食育だよりの発行。(通年)

(4)家庭・地域との連携・協力

- 早寝早起きの励行指導(通年)
- 保健だよりの発行(通年)
 - ・疾病異常の際の専門医への受診の啓発(通年)
 - ・地域スポーツクラブの指導員を活用した着衣水泳(7月)
- 定期健康診断や身体計測の結果の速やかな伝達(健康記録簿「すこやか」7月,10月)
- ★□家庭における健康・体力づくりや生活習慣の振り返りの推進(9月)
- ★□学校保健給食委員会主催の給食試食会や学校栄養職員・学校医による講話,親子給食会等を通じた食教育の推進
 - ・地域と連携した料理教室の実施。